（郵便物認可）　（本號六面）　（毎月曜日休刊）　（定價金三錢）

時事新報

第千三百三號
明治十九年六月十六日　水曜日
舊丙戌五月十五日（丁未）
（西暦一千八百八十六年）

時事新報

日本の稲田は封建の遺制なり

日本の工業は見るに足るものなく商業は尚ほ見れより甚だ乏きものあり唯農業は古來全國の人口過半數の人の營む所にして國家の經濟皆これ依賴し來りたるものなるが故に日本と稱して一個の農國といふも稍や實に近きものならん然るに古來日本の農事は一種の變相と備へ世界普通の農事とは大に其趣を異にせり此有樣にして永續せん限りは國の富榮を謀るの工風蓋し甚だ困難なるべしと信ずるあり尤も近來は世上にも農事改良の說漸く行はれて從來の農事は不充分なると知得したるやの色もあれども其謂はゆる改良なるものはたゞ此迄の耕作法若くは栽培法に修正を加ふるに過ぎず例へば稻株を肥やしとか米粒を大くするといふ位の局部偏小の處に着目し老農老圃流の思想の範圍を脫するまと能はず結局日本の農事はその大本より既に誤りあるに心附かざると我輩に於て殘念の上無きなり左ればとて我輩が決して今の農事改良說を排弄して只漫に斯る方策を罵るものに非ず如何にも全國最多數の農民を驅て一朝これを農以外の職業に就かしむる譯にも往かず今の農事にも加へ得べき丈けは改良修正を施さゞと無論大切なりとは云へども此に際して我輩少しく農事熱心者の注意反省を仰ぶぎ度次第もあればこれと左に陳せん

日本の農事は如何なる原因よりかしく米を作るれ一事に偏傾し農業と云へば米を作るもの、米を作らずと云へば農業は成立さざるものと合點し多數の農民十の九までは米作の外に他に農事を知らず其偏傾の甚しかりしが爲めに遂に併て他の有利なる農事までも忘却したるを復た藏ふ可らざるの事實あり全體農事と稱すべきものは其範圍包括頗る廣く單に穀物を作るのみが其本領にいはらず況て穀物中の爾かも一小部なる米を作るの業が農民の本務あらざるは明白の道理にまて苟も土地と利と富を生ずるものあらんにと悉く就めて農の部中に入れまめざる可らざるなり試に方今世界の農業を以て名ある國々を見るべし亞米利加諸州若くは濠斯太利の諸殖民地或は歐羅巴の本陸等孰れの處といへども其農民さるものは穀物耕作の外に他の農事を兼業とし例へば郊野なれば牧業を兼ね山林なれば山林業と兼ね水利あれば漁業と兼ね或は菓物を作り園藝を業とする等必ず穀物耕作の外に一種若くは二種以上の兼業を營まざる無し米國濠洲の農民が一般に牧畜と兼業し歐洲本陸の農民が園藝若くは山林と兼業とする等の事例は我輩が爰に言ふまでもなきに過ぎず然るに獨り日本の農民に限り如何なれば米を作るより外に農事無しとの必得逸と爲しさるやと尋ねるに全く封建割據の制のこれを為て然らしめたる者と言はざる可らずその昔し此日本國が群雄割據の巢窟とおり五分十裂れ其際に在りて國外一歩敵方を異にし絕て經濟上、有無流通の途ならざるが故糧に敵に依らずして一城に立籠るの毫倍無かる可らず即ち各自米を作るの必要ある所以まして尋で德川二百五十年太平の其間にも各藩互に封を分ち素破、事なりといふに當れば鎖藩籠居の已む可らざるが故農民に嚴命して專ら水田を耕さしめ畑を潰して田と爲すを奬勵し務て糧米を多からしめたる積習より日本の農事遂に言ふ可らざるの惡運に陷りたるは復た如何とも爲す可らざる次第なれ共今や國を開て外國と交通し貿易の途次第に繁くその勢ひい恰も全地球を分割しく夫々分業の產物と作出する有樣となりたるなれば好しんば日本國にて米を作らずとも之を海外より仰ふぐまとは易々たるあり二十年前までは日本まは封建割據といふ制度ありたるが故に農夫が米穀耕作を專務とするは必要も與ふ共に存在せざることあれども此制度の全滅しさる今日は迄尚は依然として自作米の必要ありと心得居るは實に時勢を知らず又經濟ふも迂濶なる至りと申すべきあり且つ一歩を進めて論せんならば米は固と熱帶地方の固有產物にして周年幾度の收納あるものと日本國の如き暖帶の地ふ態々耕蒔して其有利を謀らんとするも抑も不策の至りなりと言ふの外なからん左すれば日本まて米を作るといふ事は第一その根本より間違へ居る道理にてあれに何程の改良を加へたりとて枝葉の手段は以て根本の病を全治するまに足る可らず故にこの點より考ふれば今後日本に於ては米を作るを廢して其他の利益多き農事まに就くべきこと極めて得策なるに相違無けれども前申す通り米作の一事は幾百年の昔より日本の農民ふ固着したる積習ゆゑ俄にこれを廢せといふ譯まも往くまも我輩とても強て又これを應せよとは論せざれども兎に角ふ米はと作るの農事が變則の者と知またる以上は一日も早くこれを本路に引直して農利を謀ると極めて大切なりと信ずるなり

官報

○勅令

朕海軍公債證書條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治十九年六月十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

海軍公債證書條例

勅令第四十七號

第一條　海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ一千七百萬圓ヲ限リ三箇年間ニ漸次之ヲ發行スルモノトス○第二條　此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス○第三條　此公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向三十箇年間ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還ス○第四條　此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム○第五條　此公債證書引受申込高毎期需用ノ高ニ超過スル時ハ其申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム○第七條　此公債ノ利子ハ毎年五月十一月ニ拂渡スモノトス○第八條　此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計檢査院官吏二名以上及ヒ日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但此公債證書額面十萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席ニ臨ムコトヲ得○當籤證書ノ記號種類金高等ハ大藏大臣之ヲ示ス○第九條　此條例外ノ事項ハ總テ明治十六年十二月第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例ニ據ル

●虎列刺

流行地	月日	新患者	新發死亡
大坂府	六月十三日	七十五人	七十六人
但シ四區西成郡ニ新患三十三人新發死亡三十九人			
京都府	同	十六人	十二人
岡山縣	同	十三人	二人
廣島縣	同	十七人	九人
和歌山縣	同	六人	六人
但シ上下兩京區ニ新患十一人新發死亡十人			

○流行地外虎列刺　山梨縣本月十一日新患一人、又養キニ報告セル八代郡豐富村ノ患者ハ新大麥粉ヲ以テ製シタル柏餅ノ飽食ヨリ發セリト云フ」愛知縣本月九日新患五人」滋賀縣本月八日ヨリ十日迄新患二人、新發死亡六人」山口縣去月二十九日ヨリ本月三日迄新患十人、新發死亡五人」高知縣去月二十九日ヨリ本月四日迄新患四人、死亡二人ナリ（山梨外四縣報告）（本年六月十五日官報）

雜報

○岐阜通信　六月十一日午後發

澁澤榮一氏は去る五日の夕を以て大坂支店の支配人並ふ侍女數名と共ふ當國養老公園に來遊し同地の寸人豆馬亭に投宿したり○桑原孫太郎氏　前岐阜縣會議長桑原孫太郎氏は曩に犯罪の廉ありて岐阜重罪裁判所の公判と受け居るが未ざ落着に到ふざるよを○岐阜公園

岐阜は縣下の首府ありといふにも拘はらず未だ公園は設置なかりしを今度當地の有志者小川汲三郎氏が發起とあり兼て山林局より借用しありし金華山下字千疊敷を開墾して昨今頻りに工事中あり右の千疊敷といふは往昔齋藤入道道三が盛んなりし頃御殿を構造せし所ありと言傳へ溪水潺潺松風蕭颯として頗る世外に思ひある塩所なり○鵜飼　岐阜の奇觀なりといふ長良川の鵜飼は去年は再度の出水にて鮎の收獲少なかりしも今年は又た非常に多獲あれば漁者の喜び一方ならず○虎列刺豫防　名古屋地方まては虎列刺病の流行甚しきより岐阜市中にても頻りふ戒心する所あり昨今豫防に盡力最中なり○製蠶談話會　本縣可兒郡及び本巢郡の兩所に設置しある養蠶傳習所の教員及び生徒い本月十四日より三日間本縣議事堂に集會して製蠶談話會といふを開き其道の研究を爲ふ答ありとか○製茶概況　美濃國本年の茶況は萌芽の期節、氣候十分にして前年に比べれば三四割と増収せり仝芽一貫目の價最初金二十七八錢より漸々下落して今は十錢内外に到れりといふ

○織物の景況　曾て本紙上に記せし如く足利夏物は不景氣の爲本年仕入少なるにも拘はらず客月中旬頃より買進の人氣立甘日二十五日の市況抔は終に頗賣の姿に立至り一時は意外の高直を呈せしが同月二十日に市に至り俄然木綿物は一割方の下落とおりたるも糸入物は元品不足あれば下落の傾向なし都て此際は農務繁劇つ時あるまば織出も減ぜ相場い居据りの接樣あり又桐生織物の廣帯類及竹志保は目下安價と頗しきりしも白絹は品少の爲め相應の高直あり八王子產は差して變化を見ざれども甲斐絹は聊か上向きにて唯今府下の一二を擧ふまば左の如き變化なりと

○足利綿反物（阿波絹白絹）本年四月上旬十二匁五分ヶ同五匁迄同六月上旬十四匁ヶ十六匁迄○同糸入物（綿南部夏柄）本年四月上旬四十五匁ヶ六十五匁迄同六月上旬五十五匁ヶ七十匁迄○桐生廣帯地（琥珀）本年四月上旬二百五十匁ヶ三百二十匁迄同六月上旬二百四十匁迄同六月上旬三百匁迄（同竹志保）本年四月上旬四十五匁ヶ六十六匁迄同六月上旬三百七十匁迄○八王子（綿）本年四月上旬三百匁迄同六月上旬百匁迄○八王子（綿）

Even a fly
Without breaking
As men advance
Love, ambition, ero

蠅といへども怒らず
戀も出世の願ひも
これも歸す

○今日の繰日　浅草區吉野町淫

寄

○婦人戸外遊戯　婦人戸外遊戯りとの事を知るに足るべし外出すまに外遊すまに交りて遠乘れ催

○フラチル　嫌疑の廉にて東差入物とおさんつばく度を取るなればとてフラ員があれい秋のるゝことは不相といへり我々淫罩衣を着るい勿兇地合のものを秋の寒空にフラ事のをにても淫

○Bread　や承りたし

○神佛　の

○被帽　十九は未ざ和服あるまども財政の來と待つとそるまざるは小言を云ふ可き處なれ況んや被帽の利屈曲と直し又涂代りに脫帽れ簡於てとや被帽ゞ

○　の

○　の

○被物賣買の改　都合なりとの說見ゆたるゝ私も分餘あれば普通工夫仕候其次第め一尺何程と致六七次ふも織出法と致さば織屋羽織小袖等隨意に候

○御辭儀　の演說傍聽席ふ裝飾の多ゝりし洋服の令閣令譚しには殆んど愛ふ歐米人に對ふ意申上候者也